

南アフリカ アジア型カンキツグリーニング病の感染はない

[FreshPlaza](#) 2024年6月5日

南アフリカの柑橘類業界がアジア型のカンキツグリーニング病は発生していないと明言

南アフリカには、一般にアジア型のカンキツグリーニング病として知られているHLBがない。最近、アフリカ型の緑化病と呼ばれるHLBより害の少ない別の株が東ケープ州の都市部の庭木で検出され、メディアで誤ってHLBと報告された。南部アフリカ柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは、「最近、南アフリカでHLBが確認されたという誤った情報があり、混乱が見られたが、それは事実ではない」と述べた。

南アフリカからのこの断定的な声明は、広範に広まった「誤ったメディア報道」に対するものであり、CGAはそれがスペイン柑橘類管理委員会(CGC)による誤った非難につながったとしている。CGCは、アジア型、アフリカ型、アメリカ型の3つの異なる形態の柑橘類緑化病をHLBと見なしている。

チャドウィック氏によると、アフリカ型の緑化病とHLB(黄龍病、すなわちアジア型のカンキツグリーニング病。俗にイエロードラゴンと呼ばれることもある)の間には明確な科学的差異があり、後者は米国のフロリダ州やブラジルの一部などの柑橘類産地の荒廃を引き起こしている柑橘類の病害である。南アフリカ柑橘類生産者協会は南アフリカにはHLBは存在しないと断言し、このことを指摘して、業界に損害を与えている誤解を招くような発言を一掃することが重要であるとした。

HLBとアフリカ型の柑橘類緑化病は異なる

ポートエリザベス市(現地語名ゲベハ市)の庭木でアフリカ型の緑化病が検出されたのを受けて、南アフリカの農業省(DALRRD)と柑橘類研究インターナショナル(CRI 非営利の研究機関)が行動を起こした。この活動の一環として、同市とその周辺地域で意識を高めることが決定された。チャドウィック氏によると、南アフリカの東ケープ州の地元紙は、アフリカ型の柑橘類緑化病がポートエリザベス市の近郊で検出されたと2024年5月20日に正しく報じた。チャドウィック氏は、「しかし、他のメディアは誤って、アフリカ型の柑橘類緑化病ではなくHLBがポートエリザベス市の近郊で確認されたというニュースを広めた。これは正しくない。アフリカ型の柑橘類緑化病は、まったく異なる種類のバクテリアによって引き起こされる柑橘類の病害であり、HLBほどの被害を引き起こさない」と述べた。

同氏は、人騒がせな反応や事実を歪曲した表現は、誤った情報を含むニュースの断片から始まったと言う。スペインの団体は、この誤った報告を引用して声明を発表した。

チャドウィック氏は、「HLBは南アフリカでは発生していない。一方、アフリカ型の柑橘類緑化病は、1932年から南アフリカで報告されている。この緑化病は、南アフリカでは、発生地域から未発生地域への繁殖材料の移動を防ぐ公的な管理の下にある。この緑化病は果実や種子では広がらず、柑橘類の果実の移動に制限はなく、この取り扱いが世界中で適用されている。これまでのところ、東ケープ州は緑化病の未発生地域であるが、ポートエリザベス市での最近の発見により、商業的柑橘類産地への蔓延を成功裏に防ぐためには、区域の特定のための調査とさらなる防除対策(媒介昆虫と感染した植物体の管理)が必要になるだろう」と説明する。

CGAは、様々な国際的業界メディアに対し、記事を撤回し、正しい情報を公開するよう対応した。南アフリカ側はまた、スペインのCGCに対し、「ウェブサイトから3つの記事を削除するとともに、虚偽の非難を行い、無責任な行動によって南アフリカの柑橘類産業に損害を与え、政府の評判に悪い影響を与えたことについて謝罪するよう要求」と通知した。

南アフリカの業界筋は、「これは、都合の良い話を真実によって邪魔させないというスペインのCGCの立場を表している。組織内の統制がなく、多くの場合にフェイクニュースを発表してきた。彼らは南アフリカをEU市場から締め出すことに固執しており、その目的のためには無責任に行動するだろう」としている。

執筆者: クレートン・スワート

(関連記事) スペイン 南アフリカの緑化病検出で検疫を求める

[FreshPlaza 2024年6月3日](#)

スペインの柑橘類管理委員会 (CGC) は、南アフリカの東ケープ州全体 - 約2万5千ヘクタールで柑橘類が栽培され、同国の柑橘類生産の26%を占めている - を検疫区域とするようEU当局に求めている。これは、南アフリカの主要研究機関である柑橘類研究インターナショナル (CRI) が先週の火曜日に、ポートエリザベス市 (ゲベハ市、国の南東部) から半径15km以内の私有地で庭木のオレンジとレモンからアフリカ型の柑橘類緑化病が見つかったと確認したのを受けたものである。しかし、CGCと南アフリカの柑橘類業界では、何がHLB(カンキツグリーニング病) であるかについて見解が異なっている。

HLB(黄龍病、すなわちアジア型のカンキツグリーニング病。俗にイエロードラゴンと呼ばれることもある) は、米国のフロリダ州やブラジルの一部など柑橘類産地を荒廃させている柑橘類の病害であり、南アフリカには存在しない。アフリカ型の柑橘類緑化病と呼ばれる害の少ない別の種類の病害は南アフリカに存在するが、これまで管理下に置かれている。

しかし、スペインのCGCの声明によるとこの病気、具体的にはCandidatus liberibacter africanusとして知られる治療法のないアフリカ型の変異株は、すでに2022年に300km以上離れたイーストロンドン市(東ケープ州)で確認された。当時、それは非常に危険な病原体であるにもかかわらず、公式の通知は行われなかった。2023年に、CRI自身の説明によるとこの細菌がポートエリザベス市で再び確認された。状況が悪化し、また最大の産地の1つであるサンデーズリバー地域に近いことや、さらに最も重要なこととして、全国に苗木を配布する種苗業者に無菌化した苗を供給する柑橘類財団の施設に近いことを考慮して、CRIは生産者に警告を発することを決定した。

スペイン柑橘類管理委員会 (CGC) のインマクラダ・サンフェリウ委員長は、「南アフリカはEUにとって信頼できる柑橘類供給国ではなく、その当局は植物の衛生に関して信頼できないと何年も警告してきた」と指摘し、欧州委員会 (EC) に対し「南アフリカ当局に対して行動を起こす」よう求めている。

2件の病気が発生した東ケープ州は、南アフリカで2番目に重要な柑橘類産地であり、スペインのCGCは「同州全体を直ちに検疫対象とし、EU向けの輸出プログラムから除外する」よう求めている。南アフリカはEU域外からEUへの最大の柑橘類供給国であり、果実は最も可能性の高い感染源ではないものの、生鮮オレンジと生鮮マンダリンの果実上で細菌が生存可能であり、検出されうることを証明する科学文献がある。同委員長は、「ただし、密かに持ち込まれる植物材料を介して侵入する可能性の方が高い」と述べている。

CGCは、CRIの担当者は現在、事態の深刻さを警告しているとしている。CRIのバイオセキュリティ部長であるポール・フリー博士は、最近のアフリカ型柑橘類緑化病に関するプレスリリースで、「サンデーズリバー地域の生産者らは緑化病が彼らの地域に広がるのではないかと懸念しており、我々はその認識と警告を人々に広める必要がある」と認めている。